

『名古屋新聞・小山松寿関係資料集』

表題の「資料集」全7巻が完結した。それを記念して、写真の『図書新聞』2015年11月14日号は1面を使い、編集した山田公平先生の「寄稿文」を掲載している。先生から『図書新聞』を送っていただき、じっくり拝読した。すこしだけでも紹介したい。なお、下の写真は名古屋大学中央図書館にある第1巻から6巻までの「資料集」である。



「本資料集は、明治39年に名古屋新聞を創設し、昭和17年の新聞統合によるその終焉まで、社長としてその刊行を続けた新聞人であり、同時にまた大正4年から昭和20年まで一貫して衆議院議員であり、憲政会から民政党の幹部として活躍し、かつ最も長く衆議院議長を務めた議会政治家でもあった小山松寿に関する資料を全7巻に（大小2千点をこす文書を基にして）編集したものである。---- 今日戦後70年を迎え、その源流の近代日本社会のあり方が、日本の近代的発展と大正・昭和デモクラシーの改革、戦時体制への変容という歴史において、改めて検討されている。その検討課題の中で、「国家と市民社会」という枠組みにおいて、中央の議会政治の展開と地方社会における新聞の発達との関係が、重要な意義を持っている。それは国の政治的争点の展開とそれに対する地方公論の生成、発達の間を焦点とする。このような、中央政治と地方公論との関係からみるなら、小山松寿の、地方新聞人にして議会政治家であったその全生涯は、近代日本社会のなかで生きて、そのような関係を文字通り一身に体現してあらわした人物の軌跡であったといえるであろう。」



山田公平先生は『近代日本の国民国家と地方自治』という大著を刊行されるなど、日本を代表する地方自治研究者である。先生からは多くのことを学んだ。とりわけ愛知県史編纂作業では、歴史研究・資料調査の厳しき、「しんどさ」の一端を教えてもらった。それに関連して、先の寄稿文のさいごに「長年編集助手として協力していただいた下村寿子さんが、編集完成の寸前に急逝されたことは、わたしにとって悲痛な思いに耐え難かった」と述べている。下村さんには、私も県史編纂作業などで、大変お世話になった。誠実で優秀な歴史研究者であったので残念でならない。忘れられないことがある。県史編纂に欠かせない役割を果たしていた下村さんが、事務局から「解任」された。これに強く抗議して、山田公平先生をはじめとして、政治行政の中心メンバーが「辞職」することになった。私も当然ながら先生らに従って、県史編纂作業から退いた。10数年前のことになるが、いまだに腹が立つ「事件」である。 (2015年12月26日)